2025年度日系社会研修　コース概要

NO.	17
所管センター	横浜
分野	農業
研修コース名（日）	感染症の診断予防技術研修
受入人数	2
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2025年8月12日（火）
提案団体（日）	麻布大学
提案団体 ウェブサイトアドレス	https://www.azabu-u.ac.jp/english/
研修員必要資格	生物学の基礎知識を持つ者，畜産あるいは公衆衛生学に関わる者， 臨床検査技師や薬剤師の資格保持者等.
研修員に必要な 実務経験年数	不問
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N5
英語能力（選択）	英語でのコミュニケーション可
研修目標	研修生は，日本式の感染症の診断・予防技術およびその考え方と応用法を習得する．また，関連する情報資源の作成と配信法の習得する．さらに，日本の文化や国際的立場について理解する.
期待される成果 （習得する技術）	1.感染症の診断・予防技術の習得 2.感染症制御の情報資源の作成と配信法の習得 3.日本式の医療の考え方・貢献の仕方を身に着ける 4.帰国後，公衆衛生分野に従事する上での具体的な活動計画ができる 5. 日本の文化，社会および国際的立場についてのより一層の理解
研修計画 （内容）	1. 講義：感染症の診断予防法について学ぶ.（詳細は研修日程案を参照） 2. 実習：ウイルス、細菌、真菌、原虫、蠕虫、節足動物の同定法，関連疾病の診断法について習得する.(詳細は研修日程案を参照) 3. 実験・演習：研究室で遂行中の実験に参加する. 4. 見学：国立感染症研究所，食肉衛生検査所，県立家畜保健所，家畜病院，他大学の研究センターなど．詳細は未定. 5. 学会・セミナー：学内外のセミナー等への参加する. 6. 発表：最終日の研修報告
本研修実施の意義 中南米日系社会への裨益効果	感染症予防に関する日本式の詳細な知識および技術を研修員は習得し，帰国後はそれらを応用し当日系社会の健康および発展に貢献する．実際，2019年に本学当研修で引き受けたアルゼンチン研修生は，帰国後，現地の病院で臨床検査技師として活躍している．2023年に引き受けたパラグアイ研修生は，帰国後，サンロレンゾにある中央獣医検査センター（Centro de Diagnostico Veterinario, CEDIVEP）に勤務し，狂犬病診断，感染動物の扱いあるいは寄生虫病の診断に携わっている．これらの研修生は，JICA日系研修コースで習った日本式の感染症診断技術は実践的であり，実際に応用しており，極めて有意義であったと述べている．さらに，本研修では，日系研修員が自身のルーツを再考し，祖先の持つ日本の精神，価値観，伝統などを探究する．本学が引き受けた上述の研修生らは，日本の文化を再認識し，国際社会における日本の主張や立場についての理解でき，再度日本に行きたいと述べている. なお，今回提案した研修は，JICA研修員をこれまで受入れた経験から，研修内容・指導方法を再検討し，より多くの成果を得られるように改善されている.

応募希望者への特記事項	研修受け入れ時期や期間については相談に応じる，申請案では2人を受け入れるとしているが，1人でも受け入れる．